

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 038	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 スイートピー等の切り花における品質保持剤の効果的な使用方法について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 花きについては日持ち性向上生産管理基準認証制度など商品として日持ちが求められている。切り花の一部の品目では、出荷段階で品質保持剤（前処理用）を使用しないと著しく花持ちが悪くなるものがある。品質保持剤を使用するにあたり、処理を行う際の温度や湿度など環境条件の違いにより、品質保持効果が大きく異なる場合がある。また、処理時間によって花卉に傷みを生じたりする場合もある。 そこで、スイートピー等の切り花に対して、品質低下を招かず品質保持剤を必要十分量吸収させるために望ましい環境と吸水時間について検討を願いたい。 スイートピー 県内一円 20戸 カーネーション 県内一円 30戸 バラ 県内一円 25戸	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 花き・観賞樹の高品質・安定生産技術の開発 花きの日持ち向上技術の開発（完了）		
対応の内容等	上記課題の中で、バラは栽培様式と輸送形式の違い、カーネーションでは冬季施設加温温度の差、ヒマワリと羽毛ケイトウでは前処理剤利用の有無でそれぞれ日持ちに及ぼす影響を調べました。スイートピーはSTS剤処理後の糖処理で花卉の退色抑制効果があり、試験結果については関連品目の生産者部会で報告をしています。スイートピーの前処理剤の効果的な処理法について、収穫後速やかに0.2mMのSTS剤を1時間程度吸収させると効果が高く（宮崎県総農試H20）、処理時の温度は3℃～23℃ではSTS吸収量と日持ちに差がない（静岡農林技研H26）という報告があります。 引き続き情報収集・伝達に努め、生産者の収穫・出荷調整作業の実態を把握し、上記結果の実証支援を行い、必要に応じて課題化を検討します。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			